

## 家庭系ごみの組成について

平成 29 年 6 月および令和 3 年 6 月に実施した家庭系ごみの組成を図 1.1 に示す。平成 29 年度では 14% を占めていた「資源化できる紙類」は、令和 3 年度では 7% と割合では半減している。一方で資源化できない紙類は令和 29 年度では 21% であったが、令和 3 年度では 25% と 4% の増加となっている。

厨芥類については、未使用食品は平成 29 年度では 6% であったが、令和 3 年度では 4% と割合では減少している。一方で食べ残しは平成 29 年度では 9% であったが、令和 3 年度では 13% と占める割合を大きくしている。

表 1.1 家庭系ごみの組成調査結果

区分		平成 29 年 6 月	令和 3 年 6 月	増減
紙類	資源化できる紙類	14%	7%	-7%
	資源化できない紙類	21%	25%	4%
布類		4%	3%	-1%
ゴム・皮革類			1%	1%
プラスチック類		23%	19%	-4%
木・竹・草類		4%	2%	-2%
厨芥類	未使用食品	6%	4%	-2%
	食べ残し	9%	13%	4%
	その他厨芥類	16%	22%	6%
その他燃やすごみ		2%	2%	0%
燃やさないごみ(アルミ箔等)		1%	2%	1%
計		100%	100%	

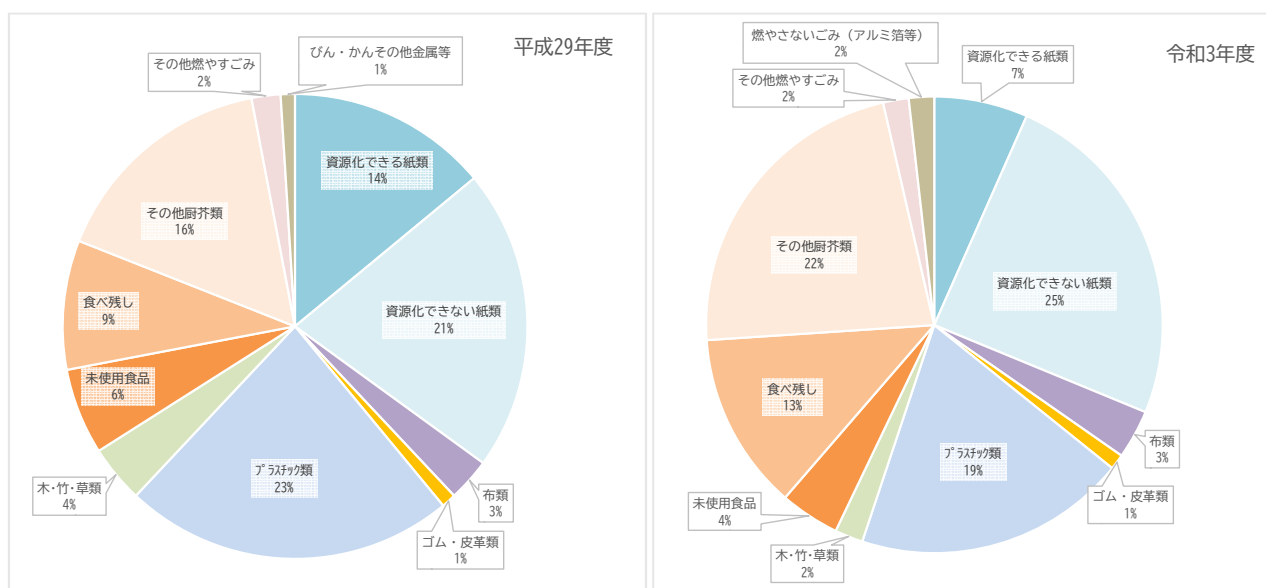


図 1.1 平成 29 年度および令和 3 年度のごみの組成

【組成調査の実施方法】市内 8 か所のごみステーションに排出された家庭ごみを約 200 kg 回収し、四分法により縮分した約 25 kg 分で組成分類を行っている。

前ページの組成割合を実際の燃やすごみ量にあてはめ、次のとおり分析した。家庭系燃やすごみは、平成 29 年度に 47,275t/年であったものが、令和 3 年度には 41,576t/年となっており、4 年間で 5,699t/年削減（12.1%減）されている。

燃やすごみの内訳を、各年度の可燃ごみ組成調査（各年度 6 月調査を適用）から推定すると、棒グラフ（それぞれ下半分）のようになる。

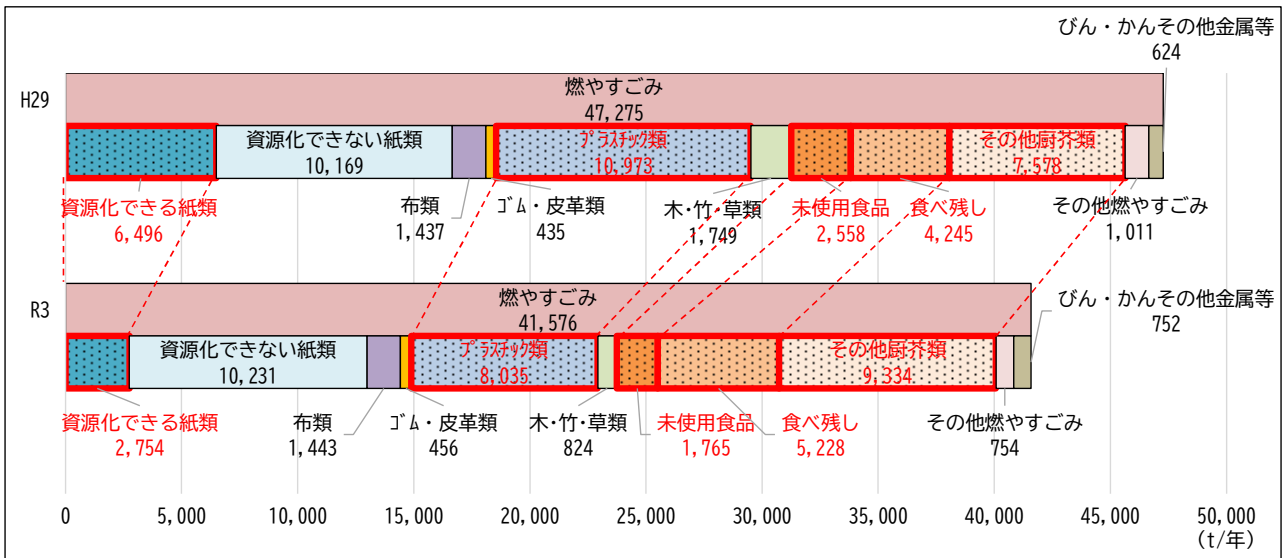


図 1.2 家庭系燃やすごみの内訳

図 1.2 のグラフで、減量化・資源化が可能と考えるごみを赤枠で示している。

・「資源化できる紙類」:	6,496t/年 (H29) → 2,754t/年 (R3)	約 60%削減
・「プラスチック類」:	10,973t/年 (H29) → 8,035t/年 (R3)	約 30%削減
・厨芥類のうち「未使用食品」:	2,558t/年 (H29) → 1,765t/年 (R3)	約 30%削減
・厨芥類のうち「食べ残し」:	4,245t/年 (H29) → 5,228t/年 (R3)	約 20%増加
・厨芥類のうち「その他」:	7,578t/年 (H29) → 9,334t/年 (R3)	約 20%増加